

シルバー
Silver

しながわ

春の息吹を身近に感じます
お仕事の合間に温かさに誘われて
出かけてみませんか



花海街の菜の花



かむろ坂の桜

品川区の一人当たりの公園面積は23区内で11位です。「しながわの公園・H29.4.1現在」春になると区内のあちこちで、こぶしや菜の花、桜と多種多様な草木が芽吹きます。春うらかな1日、お弁当を持ってお出かけしてみませんか。上の写真は東大井支所付近にある花海道の菜の花です。もう一枚は荏原支部の近くにあるかむろ坂の桜並木です。盛大に桜が咲き誇り、とても見ごたえのある場所にもかかわらず、人通りが少なく、穴場的な桜スポットですよ。

平成30年度事業計画について

事務局長

久保田 孝之



昨年度は、センター発足40周年を迎えて各種の記念事業を実施してこれまでのセンターの成果を内外にPRしてきました。23区内でもトップクラスの実績のセンターですが、こうした実績を挙げる事ができたのも、品川区からの厚いご支援と会員相互のご理解・ご協力があったからといつもながらのことではあります。深く感謝しているところです。しかしながら、センターを取り巻く状況は年々厳しさを増し、深刻な課題も抱えております。以下事業計画の概要をお知らせします。

- ① 現会員数の維持及び会員増を目指し、年間を通じ多様な取り組みを行う。
- ② 労働者派遣事業の導入を図り、就業機会の拡大と就業開拓を進めていく。

③ 引き続き事故0を目指し、安全就業の取組みを継続するにしました。

主な事業計画

1 就業機会の確保・拡大

いよいよ品川区も地域包括ケアシステムにおいて本格導入を進める段階にきています。こうした動きと要請に答えられるように引き続き新たな会員の確保に努めていきます。また、今後より多くのニーズが増加していくことが見込まれる地域コンビニ事業では、あり方、進め方について事務局職員及び従事会員によるプロジェクトチームを設置して検討を進めてまいります。次に既に他の多くのシルバー人材センターで導入している労働者派遣事業に品川のセンターも参画していきます。昨年度その前提になる派遣元責任者講習会を職員が受講し資格を取得してまいりました。速やかに事業の実施をしてまいります。

2 普及啓発事業

会員数については2月末現在

二千四百二十一人と昨年度と比較して約17名の減と漸く減少幅が縮小してきました。しかしながら依然として大変厳しい状況が続いておりますので、本年も会員募集事業を年間を通じた事業として位置づけ、勧誘に成功した会員や地区について表彰していきます。また、昨年度好評だった「シルバー人材センター体験の集い」を年3回に拡大して実施してまいります。地区の委員さん方のご協力をよろしくお願い致します。

3 安全就業対策

当センターでの事故件数は昨年度のピーク時の半減を今年度も達成できそうです。しかしながら、事故発生件数が減になったからと言って気を緩めてはいけません。引き続き、安全パトロールの強化、一人ひと声かけ運動、つま先立ち体操の継続、KY運動の実施など続けていく必要があります。

最後に平成30年度予算については下記の通り編成いたしました。なお、収益と費用で差引き千八百万余の赤字予算になっており、大変厳しい財政運営が求められてお

ります。なお一層の経費の節減に努めるとともに常に費用対コストを意識した事務処理を進めてまいります。会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

年間事業目標

| | |
|----------|---------|
| 会員数(名) | 2,500 |
| 就業実人員(名) | 2,100 |
| 契約金額(万円) | 124,000 |
| 受託件数(件) | 17,000 |

収支予算書

| 科目 | 金額 | 前年比 |
|--------|-----------|---------|
| 経常収益 | 1,318,569 | △19,277 |
| 経常費用 | 1,336,744 | △26,220 |
| 当期経常増減 | △18,175 | 6,943 |

品川区の新しい多世代交流施設の

お手伝いをしています。

『大井三丁目高齢者憩いの場』は区民の方から寄付された土地を活用し、高齢者を中心に子育て世代や障害者など、地域の方々の健康増進や世代を越えた多世代交流のできる場となることを目的として設置された施設です。平成29年4月27日に落成式が行われ、同年5月から事業がスタートしました。

各曜日に縁側でお茶や会話を楽しむ『縁側カフェ』や、お菓子などのクッキングや工作を楽しむ『ひなたぼっこ』などのプログラムが用意されていますが、当初は参加する団体やサークルも少なくプログラムの予定がない曜日もありました。でも現在では、高齢者を中心に子育て世代などにも幅広く利用されています。

この施設管理の中で、センターの3人の会員が団体や利用者の方の受付や施設の清掃を行っておりです。また、それぞれのプログラムの準備や片付けなどにも携わっており縁の下の方たちとして日々活躍しております。花や野菜などの自然との関わりで心も体もリフレッシュする



大井三丁目高齢者憩いの場

会員さん達が花苗を植えています！

という『園芸療法』のプログラムでは、草花の成長に不可欠な日々の水やりを担っており、利用者や園芸療法士の方から、大変感謝されています。そちらで収穫した野菜は、漬物やおひたしなどに活用されているそうで、会員さんへのお裾分けも楽しみです。一つだそうです。私たちの仲間が楽しく就業している施設ですので、皆さんも一度お気軽にお立ち寄りください。

大崎シルバーセンターも改築で生まれ変わりました。 引き続きセンターの会員が、お手伝いをしています。



子どもと一緒に絵本を選んでいる会員さん

かつての敬老会館からシルバーセンターと名称が変更になり、さらに品川区の新しい構想の下で旧大崎シルバーセンターは、子供から大人までそれぞれの世代が育みあい交流できる場として、愛称「大崎ゆうゆうプラザ」として生まれ変わりました。

平成28年5月に建てられた新しい施設には、従来のシルバーセンターに通っていた高齢者から、赤ちゃん・ママ・パパ・元氣一杯の子供たちと利用者の幅が広がっています。

現在、この施設では4人の会員

がお仕事をしております。仕事の内容は昼間と夜間の施設管理で利用者の受付、施設の施設、週2回のお風呂の水質検査や毎日の清掃が中心です。

また、施設の外には地域のボランティアさんがプランターに季節ごとのお花を大事に育てており、来所者の目を楽しませています。時々水やりのお手伝いをするのも会員さんたちの仕事です。

さらには若い世代向けイベントメニューの用意や子供と一緒に絵本を選んであげるなど、若い世代との交流もプラスされ元氣に生き生きと過ごしております。



季節のおりおりの花が咲いて楽しまれています

安全就業の取組み、次なるステップを！

事務局長 久保田 孝之

寒い日が続いておりましたが、漸く木々の芽がふくらみ穏やかな季節になりました。今年**の事故件数については、2月末現在で8件、昨年度と比較して4件の減になりました。**今年度も安全管理委員会の活発な委員会活動や地区委員さんのご協力により現在のところ一桁台の発生に留めることができました。

しかしながら、このような結果に満足しているだけでは「**事故0を目指す**」と言う本来の目標の到達には程遠い状況であることを認識しなければなりません。「**事故0にする**」というのは、この先どんなに技術が進歩してもおそらく達成することは困難だと思えます。だからもう諦めようというのではなく、少しでもその要因を分析して積極的に予防対策を施し事故を減らしていく気概が必要です。そのため、今年度は過去5年間に渡る品川のセンターで起こった事故事例を集約、分析し今後の予防対策に活かしていくとして「品川区シルバー人材センター傷害事故事例集・事故対策集」を作成し

ました。この冊子は、安全管理委員長、副委員長も参加して編成作業を行いました。特徴としては統計数字を用いて事故の型別分類、就業途上、就業中、職群の分類、年齢、男女別、経験年数および発生時間帯などの分析を行いまとめてみました。そして職群ごとに主な事故事例を取り上げ、その要因と改善策をいくつか記載したものです。今後の事故防止の参考にしてほしいと思います。

次に安全管理委員会の活動です。7月、11月、2月の安全就業強化月間を中心に「安全パトロール」「つま先立ち体操」「KY運動の実施」「一人ひと声かけ運動」などの取組みを実施してまいりました。最近の安全管理委員会の活動は大変活発で多くの委員から意見を出し合う雰囲気が出来上がってきております。こうした傾向はこれまでの事務局主導ではなく、自主的、自立的といったセンターの基本理念に合うものと大変喜ばしく思っております。また、植木班については、一昨年の重篤事故以来、独自の安全就業のルール

を自ら定めて事故防止の改善を進めてまいりました。二度と重篤事故は起こさないという決意の下に継続してこのような活動を続けております。

また、先日事故当事者に集まってもらい事故の要因を分析し、一緒に今後の対策に活かして行くことを目的とした再発防止講習会を開催しました。その時に参加した委員からのとても印象に残ったお言葉があります。「会員の皆さんと私には共通した変わらないものがあります。それは何でしょう」……答えは「皆さんと変わらないものとは、必ず毎年歳をとるということです。年を重ねると足の上りが悪くなったりするので、加齢を認めて頭に入れておくことが重要です。また仕事に行くのも仕事を終えて家につくまで、**も仕事の内とやうことを忘れな**いで、**危険予知**をしてください」こうしたアドバイスが、自然と委員の一人おひとりから出てくるのが最近の安全管理委員会の活動の成果です。今後も続けてほしいと思っております。

平成30年度
安全標語

優秀作品表彰

テーマ

①健康の維持管理について

最優秀賞

大井地区

春日 文雄 会員

優秀賞

戸越地区

加藤 弘 会員

品川北地区

三ツ谷 昌城 会員

テーマ

②転倒防止について

最優秀賞

品川北地区

増田 力 会員

優秀賞

品川北地区

松本 民江 会員

荏原地区

尾嶋 初江 会員

作品につきましては、毎月発行のセンター通信で発表していきます。

テーマ② 転倒事故防止について
転倒はほんの一瞬 気の緩み

テーマ① 健康の維持管理について
心に栄養 体に運動
今日も一日元気で就業



写真左から
 春日文雄会員、加藤弘会員、
 三ツ谷昌城会員、増田力会員、
 松本民江会員、尾嶋初江会員

新年地区全体会の様子

● 中延地区

1月21日(日) 荏原第二区民集会所にて

「中延地区でも会員数が年々減少しています。そうした中、地道な声かけ運動と地区委員活動の甲斐もあって夏季全体会よりも4名多い参加者数です。また、今年は戊戌(つちのえいぬ)の年です。戌とは干(かん)と言いい、十二支の上につく干(かん)は全部で10種類(甲乙丙丁戊己庚辛壬癸)あります。干と十二支を合わせて一巡りするると60年になります。前回、60年前の戊戌の年は高度成長期の最盛期で、1万円札の発行、東京タワーの完工と目まぐるしい出来事がありました。その年の流行語に「ながら族」という言葉があり、これはテレビを見ながら何かをする人が非常に増えたと言ったことから選ばれたそうです。現在でもスマホを見ながら何かをする人が大勢いますが、何かをしなごらの行動は危険を伴います。自分自身で気を付けるのももちろんですが、周りですういう人がいれば距離をとって歩くなどして危険予知行動をとりましょう」と歴史を交えた注意喚起が渡辺委員長の挨拶の中に取り上げられました。

次に、中延地区では他地区の会員さんを招いてのバイオリン演奏を行いました。コンサートや色々な場所で演奏を披露していただき、この日のためにアレンジした曲を披露していただきました。滅多に聞くことのできない演奏は、心に響き、うっとり聞き惚れ、やがてバイオリン演奏に合わせた合唱に入り込んでいきました。また、中延地区では、地区の皆さんに寄り添った企画立案を行うため独自のアンケートを参加者全員に行い、全体会の感想やバス旅行日程などの意見を募っています。このような地道な努力が地区の結集力や親睦へとつながっているのだと感じました。



バイオリン演奏にうっとり聞き惚れ!

● 大井地区

2月4日(日) 中小企業センターにて

大井地区の全体会は参加会員40名で開催されました。第一部ではつま先立ち体操に始まり、中畑地区委員長などからの挨拶に続いて安全就業について遠藤安全管理委員から報告がありました。

1月に大雪が降った後ということもあり、大雪当日にご自身が就業先に向かう際に行った対策等について説明がありました。普段は自転車就業先に向かっているが、当日は電車を利用して就業先に向かい、歩く際も一歩一歩ゆっくりと歩くように気を付け、時間にも余裕を持って行動したことでした。また、最近シルバー人材センターで起きた事故事例の紹介の他に、知人女性が大雪で転倒し骨折をされた事例のお話もあり、各会員に対する注意喚起で締めくくりました。

大井地区の各会員の皆さんは、真剣に耳を傾けている姿が印象的でしたし、やはり全体会に参加している会員さんは安全就業についても関心が高いことを窺い知ることができました。

その後のお待ちかねの第二部では、南部牛追歌全国大会優勝・NHK東北民謡コンクール優勝等の輝かしい経歴のある前川慶吾様をお迎えしました。津軽三味線の演奏のもと、ソーラン節や花笠音頭等、全国各地の民謡をご披露いただきました。会員の拍手子のもと会場が一つになつて盛り上がり、恒例のカラオケ・ビンゴゲームを行い、終始笑顔や笑い声の溢れる楽しいひとときとなりました。



迫力ある歌と三味線演奏に一同、感激!

新年地区全体会の様子

●品川北地区

2月18日(日)

品川第一、第二区民集会所にて

品川北地区は会場の関係でセンターの中で最後の新年全体会となりました。最初に、野口地区委員長より「新年あけましておめでとうございませう。今日は旧正月の3日目にあたるそうなので、この挨拶でも全然おかしくないそうです。品川北地区は会員がやや増加傾向にあるものの、センター全体では会員の減少が昨今の課題となっております。皆さんも知り合いの方に積極的に声をかけ入会を勧めてください。また、来年度の日帰りバス旅行は筑波方面に行く計画を進行中です。」と挨拶がありました。

その後、金井副委員長より「昨年度に比べ傷害事故は減少しているものの、事故状況は転倒し骨折するケースがほとんどを占めており、完治までに長引くことが多く見受けられます。安全は何よりも優先されます！自分の体力を過信せず、時間に余裕をもって行動することが大切です」と安全就業についての力強い報告がありました。

会場を隣の集会所に移しての第2部の懇親会では、目玉は「津軽三味線と民謡」です。民謡を披露していただいたのは、南部牛追歌全国大会優勝・NHK東北民謡コンクールで優勝など、輝かしい経歴の持ち主で岩手県宮古市出身の前川慶吾さん、30歳のとっても素敵な歌手です。

食事を取りながら、美酒に酔いながらのいつの間にか一緒に手拍子を交えてアツと言う間のショータイムでした。「真室川音頭」、津軽三味線の「六段」を挟み、最後は「花笠音頭」で大盛り上がりしました。拍手がなりやまずアンコールの「北海盆歌」で締めました。思いがけないゲストと会話にも花が咲きカラオケやビンゴでの素敵な景品と和やかな一日でした。

なお、「津軽三味線と民謡」は大井地区でも披露されたそうです。



品川北地区 地区委員の皆さん



熱唱する民謡歌手の前川さん

各地区のこれまでの歴史などを取り上げていきます。第10回

大崎地区のこれまでの歩み

大崎地区委員長 新山 春一

大崎地区は五反田駅を中心に北は山の手線目黒駅、南は大崎駅の目黒川沿いにまで広がる大きな地区です。かつては水田や畑などの豊かな農村でありましたが、明治から大正時代にかけて目黒川の舟運や山手線大崎駅など交通・運輸の利便性などから明電舎、園池製作所、日本精工、大崎電機、東洋製缶、ホーチキなどの大企業が発展し、現在でも明電舎本社など一部上場会社が多数存在しています。

また、皇后陛下のご実家の旧正田邸跡地の「ねむの木の家」や清泉女子大学、立正大学、NIT関東病院や終活でお世話になる桐ヶ谷葬祭場などもあります。近年は大崎駅西口の再開発で高層オフィスビルが立ち並び成田空港行きのシャトルバスも発着しています。

私が委員長を拝命した二〇一一年九月の会員数は二二六名でした。昨年一二月末の会員数は二二七名と安定した会員数を維持しています。会員の平均年齢はこの六年間で高齢化が進んでおり、八十歳以上の会員が

三七名もおります。これらの会員の新年全大会参加者には紅白のお饅頭を贈呈しており、年々参加者が増えています。地区委員会の活動は年間日程に基づき実施していますが随時Eメールなどを利用して迅速化や情報の共有化を図っています。また当地区では日帰り食べ歩きレクを開催して品川プリンスホテルパブナでの食事会、神奈川県三崎港でマグロを食べる会、横浜中華街での食事会などを企画し、気軽に多くの会員が参加できるよう複数の委員で念入りな下見を行っています。これからも会員の皆様のお知恵を借りながら、地区委員一人名と共に頑張っていきたいと思っております。



「ねむの木の家」の花や植物ですこれから咲いてきます

久保田事務局長退任挨拶

本年3月31日付で、久保田孝之事務局長が退任されました。3年間のセンターの運営で尽力されたことに対し感謝を申し上げます。

なお、後任として4月1日付で安井裕彦氏が就任いたします。

久保田孝之事務局長挨拶



突然ではありますが、この度3月31日付で事務局長を退任することになりました。在任中は、会員の皆様、岩澤会長、和泉副会長を始めとした理事の皆様、地区委員長、地区委員の皆様、大変お世話になりました。

平成27年4月から3年間、短い期間ではありましたが皆様と一緒に仕事をさせて頂きまして高齢者の社会参加の重要性について改めて認識させられたところです。いくつかの積み残した課題を置いたままの退任になり大変心苦しく感じています。センターの抱える3つの課題のうち事故対策については、安全管理委員会の貢献でピーク時の半減に抑えることができました。会員の減少についてもセンターの集い開催等によりやや回復傾向もみられてきております。就業開拓については労働者派遣事業の開始が目前にまで来ております。今後のそれぞれの立場でのご奮闘に期待をしております。

40年という長いセンターの歴史がこれからも絶えることなく、ますます社会の要請や期待に応えるものとして充実していくことだろうと思っております。最後に会員の皆様のご健康とご健勝をお祈り申し上げて挨拶にさせていただきます。有難うございました。

会員さん趣味のコーナー

15cm角から無限に広がる世界へ折り紙と人へ

荏原地区 橋本 一彦 会員

私は大学時代に学んだ建築設計で使用するキヤドシステムを使用し、展開図を考えて折り紙をしています。始めたきっかけは、大学時代に入学した山岳部で度々乗る夜行列車で騒いでいる子どもを大人しくさせるために折った折り紙から、喜ばれる楽しさを覚え、専門的な知識と手先の器用さが功を奏し、どんどのめり込んでいきました。

折り紙は一人で折る楽しみとプレゼントするときのワクワク感や相手が喜んでくれた時を共有する楽しみがあります。自分で考えた折り紙を公園で遊んでいる子どもたちに「これ何に見える」と聞きながら渡すと、とても興味深く嬉しそうに受け取って「どうやって折るの」と聞いてくれると話がはずみます。

日本の折形の基本は室町時代に武家の間で確立され、江戸時代に紙の普及と同時に急速に広まり、明治に入ると幼稚園教育、初等教育にも取り入れられ、やがて折り紙は世界に広まりorigami(折り紙)として今では世界共通語となりました。

最近では、企業とタイアップして包装紙で折ったエルメスのロゴに折り紙のイメージに合った香水をつけて遊んだこともあり。例えば、金魚の折り紙はお祭りでの金魚すくいや浴衣等の夏の思い出が連想される石鹸とラベンダー、ゼラニウムを合わせた香水を作りました。

たった15cm角の1枚の紙に少し手を加えることでもこんなにも世界が広がり、楽しくなるものかと始めた当初は気づきませんでした。皆さんも東京オリンピックに訪日する外国人のミヤゲとして折り紙はいかががでしうか。



折り紙と橋本会員

会員さん趣味のコーナー

明るく楽しく！稽古をしましょう

合気道を始めて三十六年へ

大井西地区 藤原 睦夫 会員

私が合気道を始めたのは三十六年前、三十六歳の時です。あれから三十六年、六度目の干支戌年を迎えました。

きっかけはストレスから体調を崩したことがあり、そのためスポーツセンターに通って水泳をしていました。そこでは合気道教室があり、高校生の時に柔術をしていたので、すぐに入会することにしました。初めは週一回の稽古でしたが、体が慣れて徐々に練習も週三〜四回するようになりました。

合気道の開祖は、植芝盛平先生です。先生は、若年より多くの武術をたしなみ、それに精神的修行の成果を加えて新しい武道を作り上げられました。合気道には試合がありません。お互いの習熟度に併せて技を繰り返し稽古し、心身の練成を図ることを目的としています。そのため、老若男女誰でも無理なくできるところが大きな特色です。

私が伊藤学園の武道場を借りて合気道教室を開いて十年になります。現在十数名の会員がおり、その中には女性も数名います。稽古は毎週木曜日と月二回の月曜日に行っております。準備体操は真向法、呼吸法を取り入れトリム体操に近い動きをしています。

私は現在、シルバー会員の平林さん(七十歳後半)に誘われ昨年七月より伊藤学園の交通誘導をしています。彼とは二十数年頼のお付き合いで、現在も一緒に稽古をしています。これからも体の動く限り合気道を続けていきたいと思っています。



合気道の稽古中の藤原会員

会員の皆様 普段やっていること、これからしようと思っていること、どんなことでも結構です。投稿を歓迎します。写真やこんな趣味等募集しています。事務局まで

平成30年度定時総会のお知らせ

日時 6月15日(金) 1時から
会場 きゅりあん大ホール

定時総会は、定款に基づき年一回開催され、平成29年度の決算の承認などがあります。重要な会議ですので会員の皆様の出席をお願いいたします。

健康管理について

会員の皆様が安心して働くためには、まず健康であることが必要です。健康は自分で守るのが原則であり年に一回は健康診断を受けましょう。

国保加入者の方は、年に一回無料で「国保基本健診」が受診でき、品川区からもがん検診等の通知が届きましたら積極的にご利用いただきたいと思えます。

また、お住まいの近くでかかりつけ医がない方は、医師会にお問い合わせいただくと紹介していただけますので、身近でちょっとした体調の変化等も相談することができるとは思っています。

職員の人事異動

4月1日付事務局長就任

安井 裕彦

4月1日付次長昇任

荒木 幹郎

本部長



和田裕美子

本部長



横岡 秀樹

4月1日付異動

往原支部 ▼ 東大井支所

北山 尚宣

東大井支所 ▼ 往原支部

就業相談

仕事のことや職場の悩みなど、理事が相談をお受けします。

4月12日(木) 午後1時～午後4時

本 部 和 泉 副会長
往原支部 阿 部 理事

5月10日(木) 午後1時～午後4時

本 部 戸 川 理事
往原支部 門 馬 理事

6月14日(木) 午後1時～午後4時

本 部 和 泉 副会長
往原支部 阿 部 理事



会員総数

平成30年2月末日現在

2,421名



男 1,368名



女 1,053名

あとがき

この2月の上旬、北陸地方は記録的な大雪に見舞われ、特に福井県のあわら市、坂井市、福井市では、降雪被害が甚大でした。

実は、品川区は、この坂井市とシティブロモーション活動を通じて、連携事業を行っており、文化交流も深めつつあります。このたびの積雪災害支援にあたっては呼びかけも行われました。

坂井市の花は「ユリ」であります。一昨年坂井市からユリの球根500個の寄贈を受け、しながわ花道の花壇に作付されました。昨年の8月には見事に美しい花が咲き、訪れる区民を驚かせました。今年も色とりどりの華やかなユリの開花が楽しみです。

さて、品川区シルバー人材センターも新年度を迎え、新たな課題への取組みが始まっています。会員一人ひとりに置かれても、この一年地区活動並びに仲間との交流を大切にして、それぞれが抱えている課題に取り組んでまいります。

(担当理事 伊藤 一三)